



第19号



令和8年9月1日発行

〒358-0003

入間市豊岡1-15-1

埼玉県立豊岡高等学校

同窓会 会報編集委員会

特集

卒業生が語るHR発表会の思い出

同窓会報『出藍』では、豊高の歴史を語る上で欠かせない名物行事、「ホームルーム(HR)発表会」について、前々号、前号と続けて特集で紹介してきました。本号では、その締めくくりとして、実際に行事に携わった各時代の同窓生に、思い出を寄せていただきました。

HR発表会

吉田 誠

HR発表会が始まったのは、私が二年生のときでした。部活中心の生活で、その練習をする余裕もなく今ひとつクラスの盛り上がりはありませんでした。だから、一、二年生は簡単な合唱などが多かったと思います。しかし本番では、見応えのある劇をするクラスもあり、それに感銘をうけて来年はきつと劇をやろうと思いました。

三年では本格的な劇をするクラスが多くありました。私たち二組も発表会の1ヶ月以上前に学級会で『シーザー』の劇をすることになりました。そして、脚本・監督・配役・大道具・小道具……などを決めました。配役では、ブルー

ス役がなかなか決まりませんでした。

ローマ時代の劇なので衣装は、教室の白いカーテンや家から持ちよった敷布などを使いました。また、近くの商店からもらってきた段ボールを切り、アルミホイルで被って盾・矛・鎧・兜の小道具を作りました。劇の練習は、朝や昼休み・放課後に教室や屋上でやりました。熱が入り、夜の8時頃までも練習した覚えがあります。本番が近づいて来ると、時間が足りず、授業を劇の練習に振りかえてもらうこともありました。

先生のお気に入りの女子が頼みに行くのと、ほとんど了承してもらえました。1日6時間すべての授業を練習に使えた日もありました。

そして、本番当日は、緊張感の中でそれぞれがその役割をよく果たし、満足

『シーザー』を演じた3年2組の生徒たち(昭和48年)



のいく発表ができました。確か何らかの賞を頂いた覚えがあります。特に、シーザーが信頼していたブルータスにナイフで刺され「ブルータスお前もか!」と叫びながら倒れていくシーンは、劇の一番の見せ場だったので今でも鮮明に記憶しています。

(2ページへ続く)

(1ページより)

H R 発表会でクラスの団結も高まり、それが体育祭の仮装行列へとつながりました。とてもなつかしくよい思い出です。
(昭49高卒)

『卒業』

晝間 秀子

これは、私が三年生の時のH R 発表会で発表した作品である。誰ともなく提案され、クラス全員が賛同し決定した。

三年生ともなると高校生活の集大成であり、成果への思いは強い。

皆で分担等を話し合う。強調し伝えたい事は何? 役者と声優は分ける? 道具係は何を調達? いつどこで練習? 等々。照明等舞台設備関係は演劇部員にかなりお世話になった。

作品づくりは、受験勉強や

部活動をしながら一生懸命取り組んだ。すると、かわわりの少なかったクラス員の特質も知れ、仲間への思いやり、協調性、さらに責任感も増していった。だんだんとクラスが一つの輪としてつながっていったのである。

小林総一郎先生、星野和敏先生の提案で始まったH R 発表会。高校生活の思い出作りや、クラスをまとめようとするお二人の思いは伝わったのだ。

高校を卒業すると、未知の世界へ飛び込んでいく私たち。どんな境遇に置かれても、人と人が寄り添い助け合い支え合い繋がっていくことは必要であり欠かせない。又、H R 発表会で得た努力や成果、感動や『輪』を次世代に継承していく責任もある。

その大切さが高校生当時はもちろんだが、その後、世の中で自然災害を始め、いろいろな事柄を目にし、体験

し、半世紀近く経た今だからこそ身にしみて分かる。

H R 発表会を通して得たものは、社会に出ていく私たちの第一歩の糧となったことは間違い無い。

ちなみにこの年、『卒業』は見事優勝した。(昭55高卒)

『えっ!先生 そっちですか!?』

伊藤 雅洋

全学年各クラスが演劇を発表する豊高の名物行事。クラス全員が何かに携わり参加する。

我が三年五組の担任は星野和敏先生。先生は演劇部顧問である。しかし、先生が仕切って何かをすることは無い。生徒だけで一致団結して臨んだが、先生の顔も立てようと皆で優勝を目指した。

演目は伊藤左千夫の「野菊の墓」、政夫と民子の淡い



で行っていた。民子の命が尽きた時、政夫が民子の名前を叫ぶシーンを設定、この叫びをキャストの生の発声で届けようという秘策を立てた。

初恋を描いた物語。その政夫のキャストに自分が推薦された。優勝を狙うための構想が欲しい。民子が病に倒れ亡くなるクライマックスで、何か強烈なインパクトを与えられないだろうか。セリフはキャストの発声ではなく別の生徒がマイクを通しアテレコ

拍手で幕は下りた。結果は、三年五組優勝！

星野先生の笑顔が近づいてくる。「おめでとうー！いやー、襖を開けたシーンが一番良かったよ」

民子の臨終に駆けつけた政夫の慌てぶりを見せるため、襖を勢いよく開けるシーンを作った。2枚の襖をそれぞれ2人ずつで裏から支え持ち、私の「せーのー」の合図で一気に引く。物の見事に開き、私もさも自分が開けたかのように両手を広げて、セーフ！のポーズをとった。先生は我々の立てた秘策とは違うシーンにインパクトを得たようだ。「襖を開けたシーンが一番良かったよー」とおっしゃった先生に、「えっ！先生そっちですか」とつぶやいたことを45年経った今も鮮明に覚えている。（昭56高卒）



HR発表会の思い出

山口 雄洋

私は豊岡高校に入学して初めてクラス演劇発表会という行事と出会った。それまで正式に演劇を観たこともなく成長してきた。それから創るなんて見当もつかなかった。

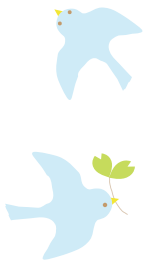
入学してから少し経ち学校にも慣れてきたころ、クラスでHR発表会に何をやるのかの話し合いが行われた。皆私と同じ顔をしていた。「どうすんの？」と学級委員もほとほと困って、皆に問いかけてみても、時間ばかりが過ぎていった。

そんな時に、事件が起きた。プライベートで失恋したのだ。中学の時から付き合っていた彼女と別れた。部活が忙しくて会う機会も減り、携帯電話のないのが当たり前の時代にあるよくあるすれ違いが原因だった。

部活をさぼって家でテレビを観ていると、夕陽とトランプで始まるテーマソングの、例の刑事ドラマが始まった。作中の犯人の悲しみとやるせなさが心にしみた。

今の自分の気持ちを何とかしたいと思い、次の日の休み時間から、刑事ドラマを下敷きに台本らしき文章を書き始めた。それは仲間の話題となり、ついに台本係となった。

そして本番。台本係の特権を行使し、自ら刑事役となり、失恋から殺人事件を起こしてしまった犯人を追いかけて、その犯人に撃たれて殉職するシーンを演じた。舞台の上で演じて死ぬことで、それまでの自分と決別することが目的だった。その後は、気持ちの整理がついて、陸上部で頑張ることができた。（昭63高卒）



懐かしい伝統行事

小池 弥生(旧姓瀧島)

私がHR発表会と聞いて思い出すのは、一年生の時の演目だ。題名は覚えていないが、王子やプリンセスが登場するストーリーだった。役者と声優に分れての練習、大道具や衣装作り、本番前のリハーサル、初めての体験だった。

本番は2日間かけて行われ、全学年で全クラスの演技を鑑賞。審査も行われ、私のクラスは新人賞を獲得したと記憶している。三年生の演技は心に迫るものがあり、先輩達の凄さに感動した。

学年が上がるにつれ、行事に情熱を注いだ人も多かっただろう。また、1学期に行うことにより、クラスの団結が早まることにもなった。今はなくなつたと聞き、とても残念な豊高の良き伝統。少なからず皆の記憶に残る行事の1

つだったに違いない。

(平3高卒)

HR発表会

福田 哲也

高校時代の思い出として、今も鮮明に残っているのがHR発表会である。

クラス単位で劇をつくり上げるこの行事では、舞台上で演じる者と台詞を語る者が分かれており、互いの呼吸が何より大切だった。演者は語りに合わせて動きを調整し、語り手は演者の動きに寄り添うような声の出し方や間合いを工夫する。全員が同じ方向を向かなければ成立しないため、準備期間には意見の衝突も絶えなかった。それでも本番を終えた後には、不思議とクラスの結束が一段と強まっていたように思う。

中でも、三年生の時に取り組んだ『蒲田行進曲』は、今で

も特別な記憶だ。クライマックスの「階段落ち」は危険だとして当初は先生方の許可が下りなかったが、段差の高さや構造を工夫し、安全面を徹底することで、最終的には実施を認めてもらえた。無理だと片付けず、私たちの思いを汲んでくれた先生方には、今でも感謝の気持ちが尽きない。

あれから30年以上の時を経たが、当時の緊張や高揚感、仲間と一つの舞台をつくり上げた達成感は、今も心の中で色あせることなく輝いている。
(平6高卒)

HR発表会の思い出

有馬 智美

私が二年生の時まで、豊高の伝統行事であるHR発表会がありました。

一年生の時のクラスでは、ジブリ作品として有名な「火

垂るの墓」の劇をしました。

実行委員を中心に、日々話し合いながら、登場人物の演技や衣装、音響や照明のタイミングなど、準備や練習を進めていきました。賞は取れなかったものの、みんなで頑張れたという満足感を得ることができました。上級生の発表を見て、どのクラスも演技、音響、照明のクオリティーの高さにとても驚き、盛大な拍手を送ったことをよく覚えています。演劇のおもしろさに気付くことができました。

二年生では、アメリカのディズニーチャンネルで放送されていた「ハイスクールミュージカル」の劇をしました。この年も、役や係ではなかったのですが、登場人物が身につけるものや舞台のセットを作りました。また、劇の最後に全員で舞台上でダンスを踊る計画があつたので、ダンスの練習もしました。準備から本番までとにかく楽しく、

充実していたという思い出があります。この行事で仲が深まったので、その後の文化祭や修学旅行もとても楽しく過ごすことができました。

HR発表会を通して、計画的に準備をすること、気持ちを言葉にして伝えることの大切さに気付くことができました。

現在私は、小学校で教員として働いています。学習発表会や学芸会などの行事では、演技や歌、ダンス、合奏などを指導しています。その際、HR発表会のことを思い出し、自分の指導に生かしたり子どもたちに話したりすることもあります。他校にはない素敵な行事に出会えて良かったです。
(平26高卒)



同窓会入会挨拶



寒竹 俊輔

この度は豊岡高校同窓会に入会させて頂きありがとうございます。第76期生徒会長を務めました寒竹俊輔です。今後ともよろしく願います。

このような機会を頂き三年間を振り返ってみると、一瞬の出来事だったかのように感じられます。一年次では、新しい環境への期待と少しの不安を胸に始まりましたが、次第に仲間との絆が深まり、学校生活にも慣れていきました。二年次では、後輩を迎え、先輩として

の自覚が芽生え、学校の中心としての役割を意識するようになりました。

三年次では、最後の一年を楽しみつづ、それぞれが目標に向かって努力を重ねました。豊高生の皆さんには今後とも魅力の溢れる豊岡高校を作り上げていけると信じています。最後になりますが、今後の豊岡高校の益々の発展を微力ながら支援していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



会長挨拶



同窓会会長

友山 宏一

去る六月の常任理事会で引き続き同窓会長を務めさせていただくこととなりました。

さて、近年、世界では、ロシアによるウクライナへの侵攻やアメリカ、イスラエルに

よるイランへの攻撃など平和が揺らいでおります。

また、国内では、自然災害が多発し、富士山の噴火も取り沙汰されています。そのようなかで、公立高校は、今後高校無償化の影響から、非常

に厳しい学校運営になってくる可能性もあります。

こうした時こそ、同窓会が母校の更なる発展のため、支える必要があると考えております。

百年を超える歴史と伝統ある我が豊高同窓会の会員数は、本年度三〇三名の新会員を迎え、延べ二万六千名を超えるまでになりました。

卒業生の中には国内でも海外で活躍されている方も多いと思います。そうした

中、現役の高校生の皆様も活躍されています。例えば、入間市社会福祉協議会が、ごみ

分別の内容を分かりやすく描いたイラスト付きのカレンダーを作成した際、我が豊高の美術部・漫画イラスト部の生徒さんが、そのプロジェクトに加わりました。三月に無事完成、入間市内の高

齢者等のお宅へ配布され、大変喜んで頂いております。

こうした地域の取り組みに、積極的に参加いただいた

ことを大変誇りに思っております。

今年度も同窓会は、会報の発行やホームページの充実を図るとともに、会員の交流の場を深める活動を進めてまいります。

また、現状に合わせて会則を見直し、更なる同窓会の発展にも努めてまいります。

今後とも変わらぬご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

(昭48高卒)

発行に寄せて



校長

小玉 佳也

会員のみなさまにおかれましては、日頃から本校の教育活動の推進と教育環境の整備に多大なる御支援と御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

現在、豊岡高校はこの四月に三十八名の新入生を迎え、各年次八クラス、全校で九四

六名の生徒が学んでおります。平成二十五年度から取り入れた「大学進学重視型単位制」のもと、大学をはじめとする生徒が希望する上級学校への進学実績の向上を目指し、職員が一丸となって取り組んでおります。

さて私は昨年四月に十二

年ぶりに本校に着任したのですが、校門を入り、その変わらぬ佇まいを目にした時にふと「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」という言葉が頭に浮かびました。いつまでも変わらない本質的なものを大切にしつつ、時代に合わせて新しい変化をも取り入れる進取の気性を貪欲に持ち、不易流行の経営理念で学校経営にあたっていく所存です。

そこで、そのような歴史ある学校の中で脈々と受け継

がれてきた豊岡高校の精神を、私は生徒たちに「三兎を追え」と表現して伝えていきます。「勉強に燃える豊岡高校」「行事に燃える豊岡高校」「部活動に燃える豊岡高校」。どれ一つとして手を抜かず、全てに完全燃焼する。最初は三つを追うことは難しいかもしれませんが、そのうちどれか一つでも軌道に乗ると、必然的にその他二つにおいても歯車が合い、すべてに対して全力で取り組む姿勢が生まれてくる。私は強くそう信じています。

三兎を追う姿勢を私は生徒に伝え続け、伝統を引き継ぎ、昔から変わることのないよき青春時代を今の生徒にも味わわせていきたいと存じます。歴史ある校舎、たくさん先輩方の汗が染み込んだグラウンド。ここに百年を超えた新たな歴史を刻み、「我ら豊高生」としてのプライドをさらに高めてまいります。

今後とも御支援、御鞭撻を賜りますと同時に、みなさま方の益々の御健勝と同窓会のさらなる発展を祈念申し上げます。

卒業生からの手紙

出藍の誉れ

生徒会長当時と校長の今



矢島 得充

1980年に入学した私は、当時2学級増の全10学級という活気あふれる環境で高校生活を送りました。高校生を揶揄する言葉「三無主義・五無主義」なる言葉もありましたが、私は2つ上の三年生に憧れ、徐々に生徒会活動に興味を持つようになりました。そのきっかけになったのが、入学して間もなく、ホームルーム発表会の開催時期の前倒し問題。クラスの行事実行委員として参加した会

議は感情論も飛び交い大荒れとなりました。そんな中、三年生の冷静な「6月にやろうと思えばできる」という一言に大人の風格を感じたのを今でも覚えています。

生徒会の門を叩いたのは、当時入っていた部活動に足が遠のき半端になっていた一年の9月頃。生徒会長から誘われるがまま副会長をやることになり、見習い期間のような1年を過ごしました。二年生になると

生徒会の改選時期。自信がなかった私は立候補を迷いましたが、先輩から背中を押され、樂觀的な私は「他の人よりは少し分かっているだろう」と立候補を決意。その後すぐに先輩方が築いてきた歴史の重みを痛感する事態に直面しました。当時の生徒会室は学校の一番西側、アーチェリー部の練習場を抜けた先にある2階建ての部室棟の1階。隣には吹奏楽団の練習場兼部室があり、生徒会室の壁には年代物の「生徒会執行部」と書かれた看板が掛かっています。実は先輩が部活動調査で「生徒会執行部」と部登録をしてしまい、そのまま名簿に記載されたという、どうでもよい小話も懐かしいです。生徒会室の中はまるでウナギの寝床。手前右側に監査部会計部、左手前には行事執行部、本部は奥にどっしりと居座っていました。

さて、痛感した話に戻しますが、9月の文化祭での出来事。実行委員の集合状況が悪く、準備が滞る苦しい場面に。行事執行部が苦悩するなか、生徒会本部も雑用をこなしながら支えましました。先輩たちがうわさを聞きつけ心配になり励ましてくれたのに、彼らが帰った後、ふがいなさに涙を友と共に流したものです。そんな時、隣の吹奏楽団が練習中に「ハッピーバースデー」を演奏し始めました。祝いの音楽とは裏腹に荒れた生徒会室の空気。苦くもかけがえのない青春の一コマでした。

今では当時の仲間と酒を酌み交わしながら、あの頃の話を花を咲かせます。硅藻研究の世界的権威であった生物の先生、一年間陸上競技だけで授業を進める体育の先生、授業中に筆箱を落とすだけで叱られた英語の先生、そして口にできない

い「NG」な先生方などの思い出に、つい大笑いがこぼれます。教員のニックネーム「ミトコン」「ベクトル」なんて、今思えば酷い名前でしたが（笑）。懸命だった10代、他愛のない10代、まさに青春の宝物です。

高校を卒業して43年が経ち、現在私は母校と同じ西部地区にある別の高校の校長を務めています。今年の卒業式では、卒業生の皆さんに「出藍の誉れ」という言葉で締めくくりました。この言葉は、弟子が師を超えろという意味であり、皆さんが私たち教員を超え大きく羽ばたく姿を願っていますと伝え、式辞を結びました。この原稿を書きながら、ふと校歌のメロディーが頭に流れてきました。「出藍の誉れ」、これこそが、私にとつての母校そのものであり、教師として生きてきた理由がここにあります。

(昭58高卒)

埼玉県立豊岡高等学校同窓会会則の改正について

改正の経緯について

現行の埼玉県立豊岡高等学校同窓会会則が施行された昭和30年3月から約70年が経過して、その間に会則の一部改正等をしてまいりました。しかし時代の変遷の中で個人情報保護等の新たな項目や現状に合わせた見直しが必要になったことから、この度、会則全体の見直しを行いました。

※詳しくは同窓会HPをご覧ください。

埼玉県立豊岡高等学校同窓会会則

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、埼玉県立豊岡高等学校同窓会と称する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の親睦を図り、埼玉県立豊岡高等学校（以下「母校」という。）の発展と社会文化の向上に貢献することを目的とする。

(事務所)

第3条 本会は、事務所を母校内に置く。

(事業)

第4条 本会の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1 会員名簿の管理
- 2 会報の発行
- 3 母校及び在校生への助成
- 4 在校生との交流
- 5 記念事業
- 6 その他目的を達成するために必要な事業

(帳簿)

第5条 本会に次の帳簿を備える。

- 1 会員名簿
- 2 会計簿
- 3 会議議事録

第2章 会 員

(会員)

第6条 本会は、母校卒業生（以下「会員」という。）で組織する。但し、1年以上在学した者も会員になることができる。

(顧問・客員)

第7条 本会に、顧問及び客員を置く。

- 1 顧問は、校長と会長・副会長経験者の中より常任理事会で推薦し、総会で承認を得る。
- 2 客員は、母校現職員及び旧職員とするが、第6条の資格を有する者は、会員とする。

第3章 役 員

(役員)

第8条 本会に、次の役員を置く。

- 1 会長 1名
- 2 副会長 若干名
- 3 常任理事 若干名
- 4 理事 若干名
- 5 監事 2名
- 6 庶務・会計 若干名
- 7 会報委員 若干名

(役員の選出方法)

第9条 役員の選出は、次の方法による。

- 1 会長、副会長は、会員の中より常任理事会で推薦し、総会で承認を得る。
- 2 常任理事は、理事又は会員の中より選出し、常任理事会で承認を得る。
- 3 理事は、クラス代表等の中より卒業年度毎に選出する。
- 4 監事は、会員の中より会長が委嘱し、常任理事会の承認を得る。
- 5 庶務・会計は、常任理事の中より会長が委嘱する。
- 6 会報委員は、常任理事の中より会長が委嘱する。

(役員の任務)

第10条 本会の役員の任務は、次のとおりとする。

- 1 会長は、本会を代表し、会務を総理するとともに、会議の議長となる。
- 2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。

3 常任理事は、会務を処理し、本会の運営にあたる。

4 理事は、同期生を統括し、その会務を処理する。

5 監事は、会計を年一回監査する。

6 庶務・会計は、本会の庶務・会計を処理する。

7 会報委員は、会報「出藍」を発行する。

(役員の任期)

第11条 役員の任期は、二年とする。但し、再任を妨げない。

第4章 会 議

(会議)

第12条 本会の会議は、総会・常任理事会・理事会とし、会長が招集・開催する。

(総会)

第13条 総会は、第6条の会員を以て構成し、毎年一回開くことを原則とし、本会の事業及び会計の報告、会則の改正等の重要事項を決議する。

1 総会は、常任理事会に代えることができる。

2 臨時総会は、必要に応じ会長が招集・開催することができる。

(常任理事会・理事会)

第14条 常任理事会、理事会は、必要に応じ会長が招集する。

(決議)

第15条 本会の各種会議の決議は、出席者の多数決とするが、可否同数のときは、議長が之を決する。

第5章 会 計

(経費)

第16条 本会の経費は、入会金、終身会費、寄付金その他の収入を以て之にあてる。

(入会金・終身会費)

第17条 新入会員は、前条の入会金3,000円、終身会費7,000円を卒業時等に納入する。

(会計年度)

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日より翌年3月31日とする。

第6章 基 金 ※新規追加

(基金)

第19条 第4条第3号及び第5号に規定する事業のため、本会に基金を設けることができる。

第7章 設立年月日

(設立年月日)

第20条 本会の設立年月日は、豊岡農業学校同窓會が設立された、大正11年3月30日とする。

第8章 雑 則

(個人情報) ※新規追加

第21条 本会が所有する個人情報は、非公開扱いとし、第4条に規定する事業運営以外には使用しない。

(細則)

第22条 本会の会則に規定しない細則は、常任理事会の決議で定める。

附 則

本会会則は、昭和30年3月20日より施行する。

昭和33年5月1日一部改正

昭和43年3月1日一部改正

昭和60年1月20日一部改正

昭和62年9月28日一部改正

平成3年10月30日一部改正

平成28年6月7日一部改正

令和8年6月25日一部改正

進路指導部より

令和8年度入試の結果をお知らせします。

様々な受験方式が広まりその分、生徒たちにとっては受験戦略をどうたてるかが難しい時代になりました。いずれにしても早めの対策が大事なのはいつの時代も変わりません。生徒は3月まで頑張りました。現役で国公立大学1名の合格者ができました。また、防衛大学校も1名の合格が出ています。

令和8年度入試合格者数			
四年制大学	短期大学	専門学校	公務員
368	9	38	9

～主な合格先～

【四年制大学】(延べ人数)

国立 鹿児島大：1名 大学校 防衛大学校：1名

早慶上理(早稲田1名) …計1名

GMARCH (学習院1名、明治1名、青山学院1名、中央2名、法政4名) …計9名

成成明武(成蹊4名、明治学院1名、武蔵7名) …計12名

日東駒専(日本13名、東洋12名、駒澤1名、専修7名) …計33名

大東亜帝国(大東文化21名、東海2名、亜細亜13名、帝京47名、国土館8名) …計91名

※その他多数合格、詳細は豊岡高等学校ホームページでご確認ください。

【就職・公務員】 都庁、入国審査官、埼玉県警

部活動訪問 (第17回)

柔 道 部

部長 陣野 亜規

埼玉県立豊岡高校柔道部は、「礼儀・努力・継続」を大切にし、日々の稽古に全力で取り組んでいます。柔道を通して、心身を鍛え、技術だけでなく人間性を高めることを目標に活動しています。練習では、怪我を防ぐための徹底したストレッチや受け身から始まります。初心者は一歩ずつ基礎を固め、経験者はさらなる高みを目指して技を磨きます。互いに組み合い、投げ、投げられる中で育まれるものは、単なる筋力ではありません。相手を敬う礼節の心と、苦しい場面でも決して諦めない強い忍耐力です。特に力を入れているのは黒帯の取得を目指す昇段審査への挑戦です。日々の稽古の成果が認められ、初めて黒帯を締める瞬間の喜びは、

何ものにも代え難いものです。また、西部地区大会などの公式戦では、一戦一戦を全力で戦い、文武両道を掲げる豊岡高校の一員として、心身ともにたくましく成長することを目指しています。柔道部は、自分の弱さと向き合い、仲間とともに強くなれる場所です。これからも伝統ある豊の感触を大切にしながら、他者への思いやりや感謝の心を持って一本取るための努力を積み重ねていきます。



思い出語り

なつかしき思い出



昭和27年入学 中嶋さく江



私、豊岡實業高等学校昭和30年3月卒業しました。以前は男子校でした。女子部が設立されたのは昭和27年だったと思います。校門の所で

写った写真が私です。周りは一面茶畑です。学校の評判は県下でも一番と言われるほどの優秀な学校でした。私、自宅からは自転車通学。その頃の道路は舗装がなく砂利道、雨の日は傘を片手に頑張りました。自転車から何回落ちたことや。でも今はなつかしい思い出です。それから年を重ね現在89歳となりました。埼玉県老人クラブ副会

長、狭山市

老人クラブ

会長等務め

させていた

だき現在に

至っており

ます。年を重ねても校歌

は忘れませ

す。



(昭30高卒)

ティータイム



五十年過ぎても『いちよん』で

元一年四組女子 市川 由子

私たちは、還暦学年同窓会をきっかけに入学時のクラス「いちよん」でも集まるようになった。昨秋はクラスの半数が参加。名札を付けなければ誰かわからないほどの当時の話になると結構覚えていたものである。やはり夏休みに行ったクラスキャンプの思い出は強い。学校行事ではないのに参加率の高かったキャンプ。古き良き時代ではあったとはいえ、担任の竹越智先生は、大変な思いをされたに違いない。おかげでクラスの団結力は特別だったと思う。

クラスの帰り、懐かしの母校を訪れてみた。折しも学校説明会が終わった時間で現教頭先生に校内を案内して

いただいた。昔はな

かった廊下の学習

コーナーで勉強に励

む後輩にエールを送

り、廊下を進むと昔

と変わらぬいちよ

んの教室。窓からの

景色を眺め、確かに

ここ、と確認する。次

は二年後、竹越先生

の傘寿のお祝いであ

(昭53高卒)



入間市の生活支援体制整備事業の一環として「高齢者の分かりやすい
ごみ分別カレンダー」の作成に、
美術部・漫画・イラスト部も協力
しました。



3 会則改正について 「出藍」7頁参照

4 会長・副会長・常任理事・監事の承認について

5 令和8年度事業計画

(1) 会議等

○常任理事会 令和8年6月25日

(2) 同窓会報の発行

第19号 令和8年9月発行予定

(3) 第81回入学式 令和8年4月8日

(4) 文化祭参加 令和8年9月5日、6日予定

(5) 同窓会入会式説明 令和9年3月11日予定

(6) 卒業生全員に卒業証書ケース贈呈

(7) 第79回卒業式出席 令和9年3月12日予定

(8) 賛助金の受付

・金額：一口 1,000円

・方法：ゆうちょ銀行に開設した口座に振込

名義 「埼玉県立豊岡高等学校同窓会」

(9) その他

6 令和8年度予算

(1) 一般会計の部(普通預金)

(収入) (単位：円)

科 目	予 算 額	摘 要
1 会 費	3,120,000	10,000円×312人(8年度卒業生)
2 賛助金	200,000	1,000円×200口
3 繰入金	0	一般会計の部(定期預金)から繰入
4 雑 入	1,077	預金利子
5 繰越金	2,278,923	前年度繰越金
合 計	5,600,000	

(支出) (単位：円)

科 目	予 算 額	摘 要
1 会議費	200,000	常任理事会経費
2 慶弔費	50,000	慶弔費
3 事務費	400,000	H P 管理料・会員データ登録料等
4 卒業生費	150,000	卒業証書ケース代
5 激励費	700,000	関東・全国大会等出場激励費
6 講師謝礼費	50,000	講演講師謝礼
7 積立金	2,500,000	定期預金へ
8 支援費	0	
9 周年行事費	0	
10 繰出金	817,000	同窓会報特別会計の部へ繰出
11 予備費	733,000	
合 計	5,600,000	

上記のとおり提案いたします。

令和8年6月25日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 友山 宏一

(2) 一般会計の部(定期預金)

(収入) (単位：円)

令和8年度 当初現在額	令和8年度中 積立額	令和8年度中 預金利子	令和8年度中 取崩額	令和8年度末 現在額
11,008,690	2,500,000	1,310	0	13,510,000

上記のとおり提案いたします。

令和8年6月25日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 友山 宏一

(3) 特別会計の部

(収入) (単位：円)

科 目	予 算 額	摘 要
1 繰入金	817,000	一般会計の部繰出金より
2 雑 入	85	預金利子
3 繰越金	382,915	前年度繰越金
合 計	1,200,000	

(支出) (単位：円)

科 目	金 額	摘 要
1 会議費	100,000	編集委員会会議費
2 事務費	1,000,000	会報・封筒印刷・送料
3 予備費	100,000	
合 計	1,200,000	

上記のとおり提案いたします。

令和8年6月25日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 友山 宏一

7 その他

令和7年度文化祭のメイン看板です。テーマは「笑顔満祭
～ブチ上がれ青春の花火～」でした。

令和8年度 常任理事会報告

過ぐる令和8年6月25日、「埼玉県立豊岡高等学校同窓会」令和8年度常任理事会を開催、無事終了いたしましたのでその概要をお伝えします。

議 事

1 令和7年度 事業報告

- (1) 会議等
 - 常任理事会 令和7年6月26日
- (2) 同窓会報の発行
 - 第18号 令和7年9月1日発行
- (3) 第80回入学式 令和7年4月8日
- (4) 文化祭参加 令和7年9月6日・7日
- (5) 同窓会入会式説明 令和8年3月12日
- (6) 卒業生全員に卒業証書ケース贈呈 303人分
- (7) 第78回卒業式 令和8年3月13日
- (8) 関東・全国大会出場選手等の激励
 - ・関東高等学校アーチェリー大会 2名激励
 - ・関東高等学校陸上競技大会 10名激励
 - ・全国高等学校ダンスドリル選手権大会 9名激励
 - ・全国高校総合体育大会アーチェリー競技大会 1名激励
 - ・関東高等学校陸上競技選手権大会 8名激励
 - ・西関東吹奏楽コンクール 12名激励
 - ・バトントワーリング関東大会 13名激励
 - ・関東高校選抜新人陸上競技大会 2名激励
 - ・関東高校アーチェリー選抜大会 3名激励
 - ・全国高校選抜アーチェリー大会 2名激励
- (9) 同窓会会報賛助金の受付
- (10) 同窓会会員名簿の整備

2 令和7年度 決算報告及び監査報告

自 令和7年4月1日 至 令和8年3月31日

(1) 一般会計の部(飯能信用金庫 人間支店 普通預金)

収入済額 支出済額 残額(翌年度へ繰越)

8,228,919円 - 5,949,996円 = 2,278,923円

(収入) (単位:円)

科 目	金 額	摘 要
1 会 費	3,030,000	10,000円×303人(7年度卒業生)
2 賛助金	176,000	1,000円×176口
3 繰入金	3,000,000	定期預金から入金
4 雑 入	13,801	預金利子、100周年記念誌頒布代1冊
5 繰越金	2,009,118	前年度繰越金
合 計	8,228,919	

(支出) (単位:円)

科 目	金 額	摘 要
1 会議費	80,415	常任理事会経費
2 慶弔費	0	

3 事務費	1,115,376	HP管理料、名簿管理料、郵送代等
4 卒業生費	126,205	卒業証書ケース代
5 激励費	570,000	関東大会・全国大会等出場激励費
6 講師謝礼費	0	
7 積立金	3,000,000	定期預金へ戻し
8 支援費	0	
9 周年行事費	0	
10 繰出金	1,058,000	同窓会特別会計の部へ繰出
11 予備費	0	
合 計	5,949,996	

上記のとおり令和7年度決算報告をいたします。

令和8年6月25日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 友山 宏一
上記決算を監査した結果、正確にして相違ないものと認めます。

令和8年5月27日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 西澤 昇

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 西澤 明

(2) 一般会計の部(飯能信用金庫 人間支店 定期預金)

(単位:円)

令和7年度 当初現在額	令和7年度中 積立額	令和7年度中 預金利子	令和7年度中 取崩額	令和7年度末 現在額
11,000,221	3,000,000	8,469	3,000,000	11,008,690

上記のとおり令和7年度決算報告をいたします。

令和8年6月25日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 友山 宏一
上記決算を監査した結果、正確にして相違ないものと認めます。

令和8年5月27日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 西澤 昇

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 西澤 明

(3) 特別会計の部(いるま野農協 東金子支店 普通預金)

収入済額 支出済額 残額(翌年度へ繰越)

1,500,125円 - 1,117,210円 = 382,915円

(収入) (単位:円)

科 目	金 額	摘 要
1 繰入金	1,058,000	一般会計の部繰出金より
2 雑 入	683	預金利子
3 繰越金	441,442	前年度繰越金
合 計	1,500,125	

(支出) (単位:円)

科 目	金 額	摘 要
1 会議費	44,400	
2 事務費	1,072,810	会報18号印刷代、送料等
3 予備費	0	
合 計	1,117,210	

上記のとおり令和7年度決算報告をいたします。

令和8年6月25日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 友山 宏一
上記決算を監査した結果、正確にして相違ないものと認めます。

令和8年5月27日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 西澤 昇

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 西澤 明

必 読

令和4（2022）年3月の卒業生は必読 同窓会報「出藍」送付希望について

卒業生のみなさんは、お元気で活躍のことと推察いたしております。コロナ禍後、時代は大きく変わりAIの発達とペーパーレス化が進みましたが伝統的な紙による情報の伝達も大切なことだと思ひ、年に1回同窓会報「出藍」を発行しております。出藍にはAIで調べられないような豊高の過去の出来事や同窓生の交流・記録・活躍、豊高の現在などが載っております。是非ご一読ください。

なお、出藍を全卒業生に送付しているのは同窓会入会費を1万円に値上げさせていただいた平成28年3月の卒業生からです。それ以前の卒業生は送付希望者や執筆者など一部の方です。また、送付費用等の関係で卒業後5年を経過した方は希望者のもとさせていただきます。

従って今年で5年目を迎える令和4（2022）年3月に卒業された方で出藍の送付を引き続き希望する場合は「氏名・卒業年・クラス・出藍送付希望」と記入し左記のいずれかの方法で同窓会事務局までご連絡ください。また、それ以前の卒業生の方で出藍の送付を希望される方も左記の方法でご連絡ください。

① ホームページより連絡



② ファックスまたは郵送にて連絡

なお、出藍は同窓会のホームページでもご覧いただけますのでご活用ください。（「同窓会報出藍」で検索）

発行所

〒三五八〇〇〇三 埼玉県人間市豊岡一―一五―一
埼玉県立豊岡高等学校 同窓会報編集委員会
TEL 〇四―二九六二―五二一六
FAX 〇四―二九六〇―一〇五三
ホームページ <https://toyokodoso.org/>



事務局だより

同窓会会則改正が文言の整理と現状に沿うように、改正されました。今後も母校をより一層応援してまいります。

また、引き続き皆様の情報提供をお待ちしております。



新理事を紹介しします

三ツ木正幸（昭53高卒）
宿谷 澄子（昭60高卒）

賛助金のお礼

令和7年度は延べ88人の方から17万6千円のご厚志を頂きました。会報発行の為に有意義に使わせていただきます。ありがとうございます。

発行人 友山宏一
編集人 大野清恵
編集委員
足立 宏・木口勝巳
黒田 哲・小林守利
高原誠子・上原みゆき
田中孝幸・野口晴康
橋本 浩・平田光洋
山田美和・小川雄作
廣瀬いづみ

令和7年度卒業生（令和8年3月卒業）

同窓会理事

◎○は年次代表

1組	黒 瀬 葵	2組	松 田 百合花	3組	◎金 野 優 蘭	4組	スモーコム 健人
	石 垣 美 玲		森 川 莉 彩		○中 山 和 奏		中 島 光 龍
5組	前 澤 る り	6組	伊 藤 伸 吾	7組	旭 秀 天	8組	野 村 健一郎
	山 田 景 奈		竹 田 圭 佑		金 子 柊		和久井 彩 樹

編集後記

生まれ故郷や母校、友人。誰もが懐かしく、帰りたくなる場所や時代があります。その時気づかなかったことが、離れてみると大切なものだとわかります。異なる時代に豊高にいて、それぞれの時代を過ごした卒業生。あの頃に帰りたい気持ちは同じです。

（こづ）

私が最初に会報の編集に携わったのは、社会人になった最初の年で、今から15年も前のことだ。いつの間にか私にも子供が居て、家庭を持ち、職場の中堅を支えている。そうして、地元を支えている諸先輩方とこれからも頑張っていきたいと改めて感じた。

（平）